



ユニバーサルパスポートとコピペルナーを 活用したレポート・卒業論文等の指導

濱 田 太 郎

概要 ユニバーサルパスポートの提出課題管理機能とコピペルナーのコピペ検証機能を用いれば、より教育効果が大きくかつ教育の手間暇を省力化できる。提出管理、コピペ判定、講評（指導）のすべてで教育の省力化と効率化（可視化等）を実現できる。学修意欲が強い学生、学修意欲が弱い学生、学修意欲や満足度を均一に高めることができる。コピペが容易に露見し道徳的に許されず大学生の学修方法として不適當であることを学生自身に観念させることができる。コピペルナーの検証結果を用いた講義や指導を行うことで学生はコピペの問題を正確に理解し観念して学修方法を改めることが全学共通授業評価アンケート結果の経年分析により示されている。

キーワード ユニバーサルパスポート、コピペルナー、コピペ、剽窃、教育改善

原稿提出日 2015年5月15日

Abstract This research proves that university lecturers can both maximize educational effects and save an enormous amount of educational efforts by using the universal passport and cypelpelna. These software programs are useful for managing submitted documents, judging plagiarized research and providing educational directions to university students by visualizing the judgements related to plagiarized research. The results of class evaluation questionnaires before and after using these software programs showed that students drastically increased their motivation for learning.

Key words universal passport, cypelpelna, plagiarism, teaching technique

1. はじめに

学修意欲が強い学生は高度に専門的かつ先端的な充実した講義に満足しさらに学修意欲を強める。しかし、教員が講義やテスト内容を簡単にしなければ、学習意欲のない学生は学修しようとして挫折し講義を放棄する。大学は啓蒙主義的最終教育機関であり、学生の満足度や学修意欲を高めるために講義やテストを簡単な内容にするのは本末転倒である。

本稿は、講義や論文指導でユニバーサルパスポートとコピペルナーを活用することで、より教育効果が大きくかつ教育の手間暇を省力化できることを示す実証研究の結果報告である⁽¹⁾。本研究の第1の目的は、ICTを用いて学修意欲が強い学生と学修意欲が弱い学生の学修意欲を高め、学生の学修意欲や満足度を均一に高めることである。

近畿大学では、ユニバーサルパスポートを導入し、学生の履修登録、学生への情報揭示伝達（講義情報や就職活動情報等）、教員の課題管理、採点登録等が一括して行えるようになった。ユニバーサルパスポートの課題管理機能を用いれば、レポートや卒業論文等の提出管理が容易であり、学生がレポートや論文を電子データで提出するため、教員がコピペルナーを用いて学生の丸写し（コピペ）の実態を容易に判定することも可能となった。

大学は啓蒙主義的最終教育機関であり、学生は基本的知識を理解した上で問題点や課題を主体的に分析し自らの見解をまとめなければならない。しかし、学生の間で教科書等のコピペが安易にかつ罪悪感に乏しいままに横行しており、何ら深い思考もしないままに、コピペと丸暗記により期末テスト等に合格し単位を修得している。本研究の第2の目的は、ICTを用いてコピペが容易に露見し道徳的に許されず大学生の学修方法として不適当であることを学生自身に観念させることである。学生の間でコピペが安易にかつ罪悪感に乏しいままに頻繁に行われており、こうしたコピペが学生の思考停止を意味するがゆえに道徳的に批難されるべきものであると論ずる。そして、コピペがいかに問題があるか学生に理解させるために、コピペルナーの検証結果を用いた講義や指導を行うことが教育上不可欠

(1) 本研究は、平成25年度近畿大学学内研究助成金（21世紀教育開発奨励金（教育推進助成金））から助成を得た。助成条件として研究成果公表等が課されているため、本研究の成果公表等をここに付記する。研究成果報告を平成26年3月14日の経済学部FD研究会で行った。平成26年8月8日に行われた「ICT利用による教育改善研究発表会」において「提出課題管理ソフトとコピペ判定ソフトの組み合わせによるレポート・卒業論文等の指導」とのテーマで研究報告を行った。本稿はこの研究報告を大幅に加筆修正したものである。また、その成果を広く公表・広報するために、成果の一部を分かりやすく解説した小稿を経済学部広報誌『生駒便り』第12号で公表した。研究成果について日本経済新聞からの取材に応じ、その内容が平成26年8月4日の日本経済新聞に掲載された。

であると論ずる。このような講義や指導によってはじめて学生はコピペの問題を正確に理解し観念して学修方法を変えるのである。

2. 研究の概要

本研究では、経済学部3～4年次配当の国際法Ⅱ（2単位、約30名履修）、法学部2～4年次配当の国際組織法A（2単位、約30名履修）、法学部3～4年次配当の国際人権法（2単位、約30名履修）の各講義において、中間レポート課題を課しコピペ判定ソフトであるコピペルナー（株式会社アंक製）を用いて学生が提出したレポート相互間のコピペ判定を行い、講義で講評（指導）を行った。経済学部の卒業論文（4単位、5名履修）において、学生が提出した卒業論文とインターネット上の情報のコピペ判定を行い、書き直しを指導した。コピペ判定を可能にするため、ユニバーサルパスポート（日本システム技術株式会社製）の課題提出管理機能を用いて、学生にレポート及び卒業論文の電子データを提出させた。

教員がユニバーサルパスポートの課題管理機能を用いれば、提出期限を設定し学生にレポートや卒業論文の電子データを提出させることができる。事務職員を受け取りで煩わせない。学生は24時間いつでも提出できる。教員のデータ管理も容易である。提出管理に関し、教員、学生、事務職員的大幅な省力化・効率化が実現できた。

国際法Ⅱと国際組織法Aでは、期末テストと同一の形式（定義題2題、論証題1題）の中間レポート課題を課した。国際人権法と卒業論文では、自由論題とした。

提出されたレポートや卒業論文のコピペ判定結果は、講義時間中にパソコンやプロジェクターを用いて実名で表示した。教員が判定結果を分析し講評（指導）を加え、学生に言い逃れできない形でコピペの問題点を観念させた。コピペルナーを用いることで、コピペ判定を短時間かつ客観的に行え、学生にコピペ割合や箇所を明示（可視化）でき、教育の省力化と効率化が両立された。

表1 コピペした学生の割合

国際法Ⅱ	44.4% (27名中12名)
国際組織法A	41.0% (22名中9名)
国際人権法	25.8% (31名中8名)
卒業論文	60.0% (5名中3名)

3. ユニバーサルパスポートを利用した課題管理

ユニバーサルパスポートの「課題管理」機能を用いると、レポートや卒業論文の提出管理の手間暇を大幅に省力化できる。事務部での受け取りや教員ポストへの投函では、学生との間で提出したくないの押し問答が発生する恐れが大きい。また、事務部での受け取りを依頼すると事務職員の手間を煩わせる。しかし、ユニバーサルパスポートであれば、こうした押し問答もなく、事務職員の手間を煩わせないので、専任教員だけでなく非常勤教員も安心して利用できる。

しかも、提出期限を設定して提出期限後の提出を認めないように設定できる。期限後の提出を特定の学生にだけ認めることは不公平である。期限前であればいつでも提出できるため、期限直前の病気や就職活動等を口実にする学生の苦情を無視してよい。

学生も提出したか否か自分で確認できるので安心感がある。

教員は、提出物の保管が容易である。答案用紙等の提出だと紛失の恐れがある。メールによる提出だと、メールをきちんと管理しないとどれが最終版か分からなくなる。

大学から「UNIVERSAL PASSPORT 利用手引き 教員用」が配布されたが、課題管理の説明があまりにも簡略なので（同12頁）、以下で、レポートや論文の提出管理を念頭に置いて、その手順を具体的に示す。

① 講義毎に「課題管理」の画面を開く。

The screenshot displays the Universal Passport system interface. At the top, there are navigation tabs: 履修者名簿, 出欠管理, 時間割, シラバス照会, 学籍情報照会, ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト, and キャリア関連. Below these are sub-tabs: ポータル, クラスプロフィール, and スチューデントプロフィール. The main content area shows a calendar for the month of February (2013後期) with days from Mon to Sun. On the right, there is a grid of icons for various functions: 履修者名簿 (List of Names), 出欠状況参照 (Attendance), 掲示登録 (Notice Registration), 課題管理 (Homework Management), アンケート作成 (Questionnaire), 授業資料 (Class Material), シラバス照会 (Syllabus), and 授業評価結果 (Class Evaluation). The '課題管理' icon is highlighted with a red box and a tooltip.

ユニバーサルパスポートとコピペルナーを活用したレポート・卒業論文等の指導（濱田）

② 「課題管理」のボタンを押すと下記の画面となる。この画面で「新規」ボタンを押す。

③ 下記の画面にて、「タイトル」に適宜「レポート提出」等明記する。

その上で、「提出期限」を設定する。「提出期間を過ぎた提出を受け付ける」のボックスはチェックしない。「再提出を受け付ける」ボックスをチェックすると学生が提出期限まで自分で何度でも提出をやり直せるので便利である。

「課題内容」にレポートすべき内容等を注意点を記載しておく。「添付ファイル」でレポートの書式や体裁等細かい指示を出す文書ファイルやレジュメ等添付することができる。

「確定」ボタンを押すと学生から閲覧できるようになる。

- ④ 学生が課題を提出すると「課題管理」に「New」が表示される。

The screenshot shows a web portal interface. At the top, there are navigation tabs: 履修者名簿, 出欠管理, 時間割, シラバス照会, 学籍情報照会, ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト, and キャリア関連. Below these are sub-tabs: ポータル, クラスプロフィール, and スチューデントプロフィール. The main content area is divided into a left sidebar with a calendar (Mon to Sun) and a main dashboard. The dashboard contains several buttons: 履修者名簿 (List of Names), 出欠状況参照 (Attendance), 掲示登録 (Notice Registration), 課題管理 (Homework) with a 'New' indicator, アンケート作成 (Questionnaire), 授業資料 (Class Material), シラバス照会 (Syllabus), and 授業評価結果 (Class Evaluation). The user is identified as 土曜 6限 30366C0663 卒業論文 濱田 太郎.

- ⑤ 「課題管理」を開くと期限までに何名の学生が提出したかがわかる。

The screenshot shows the '課題管理' (Homework Management) page. It features a sidebar with a calendar and a main content area. The main content area includes a navigation bar with 履修者名簿, 出欠管理, 時間割, シラバス照会, 学籍情報照会, ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト, and キャリア関連. Below this are sub-tabs: ポータル, クラスプロフィール, and スチューデントプロフィール. The main content area displays a table of submitted assignments. The table has columns: 課題グループ (Homework Group), 課題 (Homework), 提出期間 (Submission Period), 履修者 (Student), 提出者 (Submitter), and 前除 (Delete). The first row shows '卒業論文の提出' (Submission of graduation thesis) with a deadline of '2013/04/05(金) 00:00~2013/12/25(水) 00:00', 9 students, and 3 submitters. The status is '状況' (Status) and the delete button is '削除' (Delete). The user is identified as 土曜 6限 30366C0663 卒業論文 濱田 太郎.

ユニバーサルパスポートとコピペルナーを活用したレポート・卒業論文等の指導（濱田）

⑥ [提出者] の [状況] ボタンを押すと、学生毎に提出の有無が確認できる。

原修者名簿 出欠管理 時間割 シラバス照会 学籍情報照会 ホーム | メール設定 | サイトマップ | ログアウト
キャリア関連

ポータル クラスプロフィール スチューデントプロフィール

Mon 月曜日
Tue 火曜日
Wed 水曜日
Thu 木曜日
Fri 金曜日
Sat 土曜日
Sun 日曜日
実習
集中

2013後期 現学期

[トップ][原修者名簿][出欠管理][掲示登録(教員)][課題管理][アンケート作成][授業資料][シラバス照会][授業評価結果参照]

土曜 6限 30366C0663 卒業論文 濱田 太郎

戻る

卒業論文 (履修者数: 9人 提出者数: 3人) [並行順] [学籍番号順] [表示]

課題: 卒業論文の提出 (作成者: 071421 濱田 太郎)
提出期間: 2013/04/05(金) 00:00 ~ 2013/12/25(水) 00:00

未確認/未ダウンロードの課題のみ表示

選択	学籍番号	学生氏名	提出日時	回数	採点	コメント	メモ	確認
<input type="checkbox"/>	1011510107	[REDACTED]	未提出					
<input type="checkbox"/>	1011510337	[REDACTED]	未提出					
<input type="checkbox"/>	1011510415	[REDACTED]	2013/12/18(水) 16:05	1				未ダウンロード
<input type="checkbox"/>	1011510420	[REDACTED]	2013/12/20(金) 17:47	1				未ダウンロード
<input type="checkbox"/>	1011510425	[REDACTED]	未提出					
<input type="checkbox"/>	1011510444	[REDACTED]	未提出					
<input type="checkbox"/>	1011530009	[REDACTED]	未提出					
<input type="checkbox"/>	1011530031	[REDACTED]	2013/12/19(木) 15:06	1				未ダウンロード
<input type="checkbox"/>	1011530070	[REDACTED]	未提出					

⑦ [学生氏名] を開くと [提出ファイル保存] ができる。加えて、[評価] の [教員コメント] 及び [採点] を登録して学生に直接伝えることもできる。

[提出ファイル保存] ボタンを押す。採点は、ABC, 点数, 優良可何でもよいが、複数課題の自動通算はできない。

Sat 土曜日
6限
卒業論文 *

Sun 日曜日
実習
集中

2013後期 現学期

提出された課題

学生	1011510415 [REDACTED]
提出日時	2013年12月18日(水) 16:05 回数: 1
学生コメント	<input type="text"/>

提出ファイル保存

評価

教員コメント	<input type="text"/>
--------	----------------------


※URLをハイパーリンクとして登録する場合は、{ }内に記述してください
※学生に公開されるコメントです

教員メモ	<input type="text"/>
------	----------------------

※学生、他の担当教員には公開されません。

採点: 採点結果を学生に公開する

- ⑧ [提出ファイル] は [学籍番号とローマ字の学生の名前] のファイル名でダウンロードできる。コピペルナーはバージョン3から Word でも PDF でも一括してコピペ検証可能になったが、あらかじめファイル形式を指定・制限する方が管理しやすい。

名前	更新日時	種類	サイズ
 1011510415_001_01[REDACTED]	13/12/27 (金) 1...	Microsoft Word ...	86 KB

ユニバーサルパスポートによる課題管理の多人数講義への対応について更なる機能改善を希望する。複数教員での共同管理や複数課題での採点の通算機能がほしい。提出されたレポート・論文を1冊に製本するサービスを印刷会社に委託すると教員が採点に際し全体に目を通したいときに便利である。

卒業論文の印刷製本サービスと一体化すると便利である。学生の登録画面で、表紙を作成するページを表示させ、表紙と論文本体の文書ファイルとを自動的に一体化させ、かつ、これを印刷業者が製本して学生に引き渡すサービスがあれば、卒業論文の印刷製本の手間暇が大幅に簡略化される。こうしたファイルの一体化は、科学研究費の申請画面で見られ、個人情報と研究計画は別々に登録し、最終的に1つのPDFファイルに統合される。各学部で卒業論文の形式や論文製本の体裁を統一して、すべての卒業論文履修者が必ず製本することで、大学での良い思い出づくりになる。また、大学院のように、卒業論文の献本義務を課し大学で保存すれば、卒業生と大学のつながりを強化することも可能である。

4. コピペルナーを用いたコピペ検証, 検証結果を用いた学生への指導

本研究では、コピペルナーによるコピペ検証として、文書のネット上の情報との類似性を判定するシングルチェッカーと、提出された文書相互間で類似性を判定するクロスチェッカーを用いた。レポート課題については後者、卒業論文については前者を用いた。

それぞれの検証結果を用いて講義等で講評を行った。この際、パソコンやプロジェクターを用いて、検証結果を実名で表示し、コピペの問題点を指導した。

学生の提出したレポートの相互間の類似性はこれまでは直感的に判定していたが、コピペルナーの利用で容易・客観的・短時間に判定できるようになった。また、ネット上の情報との類似性の判定は、これまでは検索サイトを用いて直感的に判定していたが、コピペ

ルナーの利用で容易・客観的・短時間に判定できるようになった。また、類似性を有する文書を容易に参照できるので、真にコピペかあるいは学生が本来引用あるいは参考にすべき文書であったか否か容易に判断できるうえに、検証結果を学生指導に用いる際の手間暇を省力化できた。

もっとも、後述の通り、コピペルナーが示す類似性の高さだけでは、真にコピペであるか判断できず、一定の工夫が必要である。

コピペ検証結果を分析すると、コピペの問題点は、大別すれば、①他人のレポートを丸写しただけである、あるいは姑息な手段によって丸写しを隠そうとしていること、②指定教科書の記述をその意味も分からないままに丸写ししていること、③信頼性の乏しいインターネット上の情報までも丸写ししていることの3点である。これら3点に共通するのは、学生の思考停止、すなわち主体的に考察・分析する姿勢の完全欠如である。ゆえに、コピペは道徳的に許されず、大学教育の学修方法として不適当なのである。

5. 講義での活用例の検証

3つの講義において、期末テストとレポートを併用し評定（70%対30%）することとした。レポートは期末テストと同一の形式で出題した。1つの講義において、レポートだけで評定した。

検証の結果、学生がどのようにレポートを作成したかの過程が明らかになった。この検証結果を用いて講義等で講評を行った。この際、パソコンやプロジェクターを用いて、検証結果を実名で表示し、コピペの問題点を指導した。どの学生がどの学生のレポートをコピペしたか、多くの学生は教科書を丸写しするだけである等、それぞれの学生がどのようにレポートを作成したかの過程が赤裸々に明示され、学生からは「コピペルナーは恐ろしい」との声が聞かれた。このように判定結果を講義で実際に示すことが不可欠で、本人の気づきの機会として教育上大きな効果がある。すなわち、学生はコピペの問題を正確に理解し観念してコピペを止めるのである。

(1) 国際法Ⅱでの活用例

この講義では、期末テストと同一形式の問題をレポート課題として出題し、提出された文書相互間で類似性を判定するクロスチェッカーを用いた。

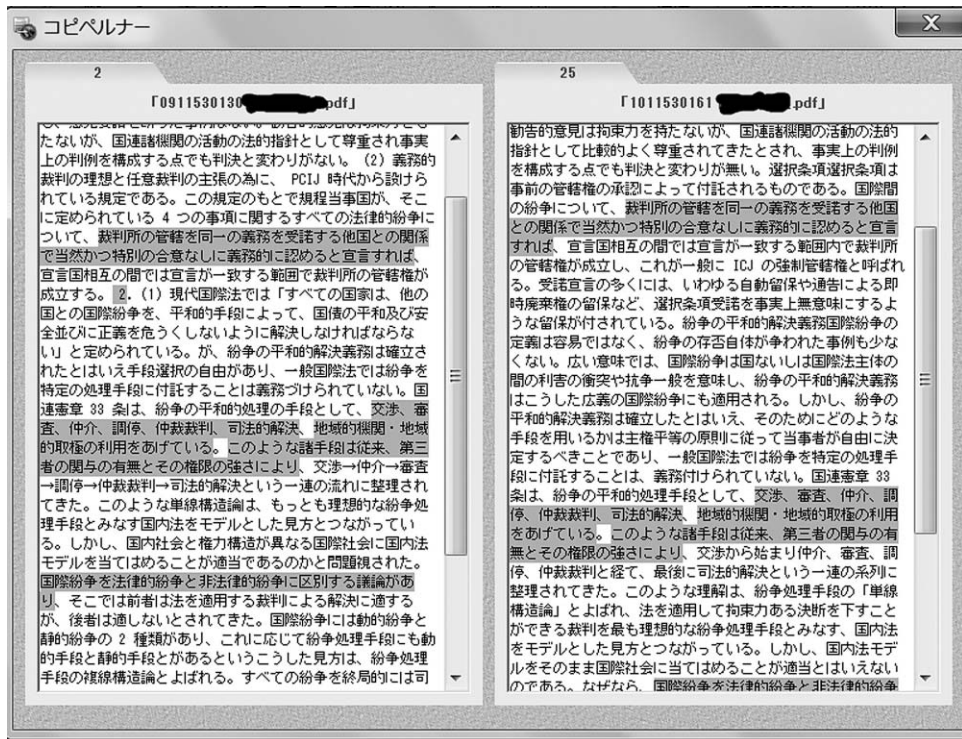
具体的には、2題の定義説明問題、1題の論述問題を出して、レポートを提出させた。

2 題の定義説明問題とは、「①国際司法裁判所の勧告的意見，②選択条項を説明せよ」という問題である。1 題の論述問題とは、「紛争の平和的解決について論じなさい」という問題である。

前者の定義出題型では，むしろ類似性が強いほど正解の可能性はある。定義を自作するのはおかしいからである。しかし，後者の論証出題型では，論証の方法は事実上無限であるから，たとえ教科書を指定したとしても，教科書の記述以外の類似性が強い（例えば論証構成等）場合はコピペだと判定できる。他方，教科書の記述が似ていても仕方がない面がある。



[グループ 1] で13%類似と判定された2つのレポートの内容は，次の通りである。



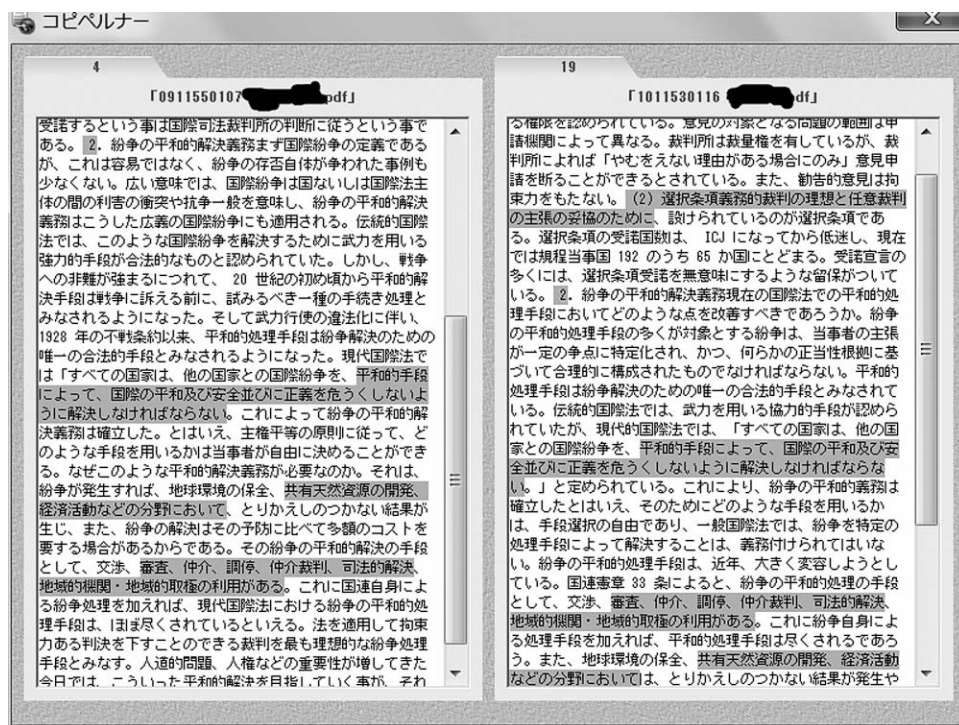
コピペルナーが類似性を判定した箇所のうち、選択条項の説明問題に対する解答である「裁判所の管轄を同一の義務を受諾する他国との関係で当然かつ特別の合意なしに義務的に認めると宣言すれば、……」の一節は、指定教科書271頁の記述そのままである。教科書の定義の完成度が高ければ、多くのレポートで全く同一の記述ばかり見られたとしても、むしろ歓迎すべきことである。しかし、教科書に完璧な定義が丸写し可能な状態で掲載されていることは少なく、教科書の複数ページを自分できちんとまとめなければならぬ場合がほとんどである。また、教科書通り説明をだらだら書くのではなくて要領よくまとめなければならない。検証結果を示す講評において、定義を用いる場合には、真に教科書の当該定義が完璧であるか、目次や索引を活用し別のページの記述と比較したり、他の教科書の説明と比較するよう学生に指示した。

次に、国連憲章33条の説明について、類似性が認定されている。この記述は、指定教科書261頁の記述であり、国連憲章33条の条文をほぼそのまま解説したものである。つまり、この記述も多くの学生の答案で類似または同一でもやむを得ない面があるが、論述問題では論理の流れを明快にするため、条文をそのまま説明することが必ずしも美しい解答とは言えず、適宜説明を省略すべきか必ず検討すべきであると指摘した。特に、左のレポート

に見られるその直後の「交渉→仲介→審査→調停→仲裁裁判→司法的解決」という表現も教科書の表現そのままであり(261頁), そのような説明が論述に真に必要なか自分自身で全く考察していないと強く疑われることを指摘した。

このように, 背景はともかくも, コピペルナーの類似性判定において, 第1に定義出題型の問題での類似性, 第2に教科書の記述との類似性について, 一定の配慮が必要であることが明らかである。本研究では, このような配慮を行うために, 敢えて教科書の一部のページを完全にコピペして作成したダミーのレポートを作成し, そのダミーとの類似性の判定も併せて考慮することとした。

さらに, 学生が真に教科書の記述内容を理解した上でレポートを作成しているかを確認する必要がある。[グループ5]で11%類似性があると判定された次の2つのレポートを比較検証することが, こうした教科書の記述の理解度を図る上で重要である。



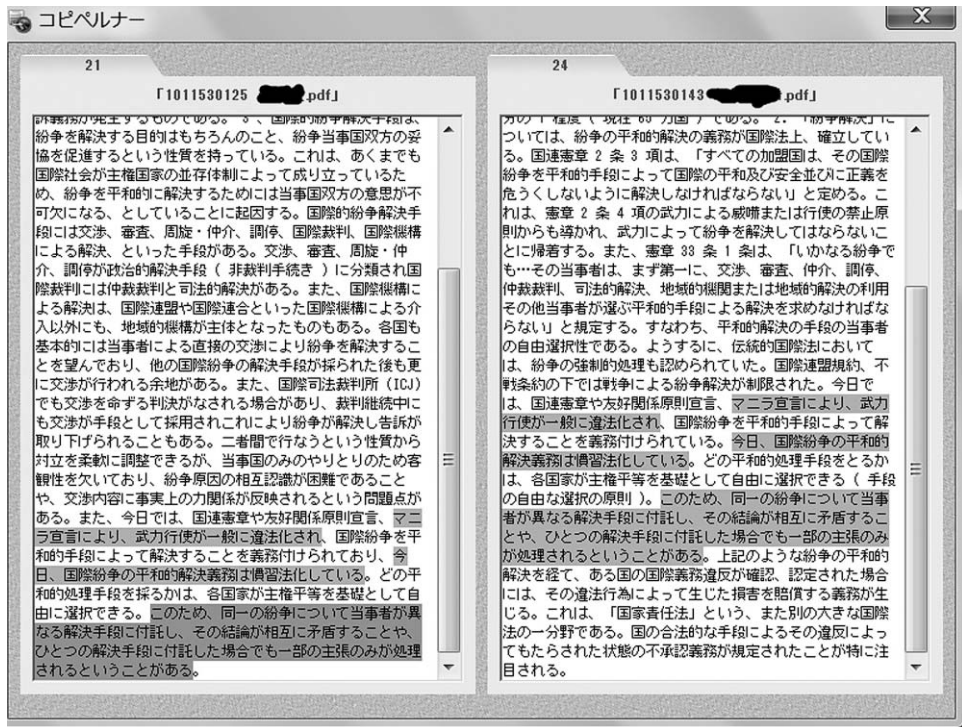
いずれのレポートにも, 現代国際法では, 「すべての国家は, 他の国家との国際紛争を, 平和的手段によって, 国際の平和及び安全並びに正義を危うくしないように解決しなければならない」という表現があり, 指定教科書259~260頁の表現そのままがコピペされてい

る。鍵括弧や句読点まで全く同じだ。[グループ1]で13%類似と判定された2つのレポートでも類似した表現が見られる。

そこで、授業でレポート講評を行った際に、このような記述をした学生すべてに対して、「なぜすべての国家がこのような義務に拘束されるか教えてください」と問うてみた。驚くべきことに、誰も私の問いに答えられなかった。正答は、「国連加盟国は国連憲章で、それ以外の国は一般国際法（国際慣習法）で拘束されるから、すべての国家が義務付けられる」である。すべての国家が拘束されるのは一般国際法（国際慣習法）による場合のみであると初回の講義からずっと教えていた。しかし、学生は、講義で私が直接そのように発言しない限り、この教科書の記述と講義で教えた一般国際法の性質を結びつけて考えることができない（教えられた知識の応用力がほぼないに等しい）のである。

このような状況で、教科書の記述をそのまま意味も分からずコピペしていることが判明したのである。教科書の意味も分からずコピペするため、不必要な表現までコピペされている。教科書の記述のうち理論的に重要な個所についてレポート提出後に講義で学生に直接問い直してみることが教科書の内容をきちんと理解しているか確認するのに必要不可欠であるとわかった。

次に、[グループ2]で21%類似と判定された2つのレポートの内容比較は、このような定義問題と教科書類似性とは別の有意義な検証結果であると考えられる。



両者を比較すると、コピペルナーが判定した類似性が見られるのは、いずれも教科書の記述のコピペ部分である。右のレポートに最後7行の蛇足（不要な説明）が追加されていることが両者の実質的な差異である。そこで、定義問題に一定の配慮を行いかつ教科書の記述との類似性を除外して導き出したこのような実質的な差異に着目して、いずれのレポートがいずれのレポートを改悪しながらコピペしたかを講義において示して指導を行った。

右のレポートは左のレポートを見ながら作成したものであると直感的に想像される。なぜならば、右のレポートの最後7行の蛇足は、不要な説明であり、全く同じ内容でレポートを提出すれば同じ内容だと指摘されることを恐れ、適当に自分で考えた数行を付け足したと考えられるからである。このような付け足し部分は、内容がよくわかっていない学生だと上述の説明と矛盾したり、あるいはまったく関係のないことが記載されているのである。

別の学生のレポートをコピペした学生は、コピペした個所をわざと数行前後させる、微妙に表現だけを変える、蛇足の数行を最後に加える等の姑息な手段によって、類似性がないように見せかける。しかし、誤字や誤答までもコピペしているので多くは直感的に類似

性が判定できる。コピペルナーは、類似部分を明確化させ、かえって両者の実質的差異も明確化するため、どちらがどのように改悪しながらコピペしたかの過程を明らかにすることができる。

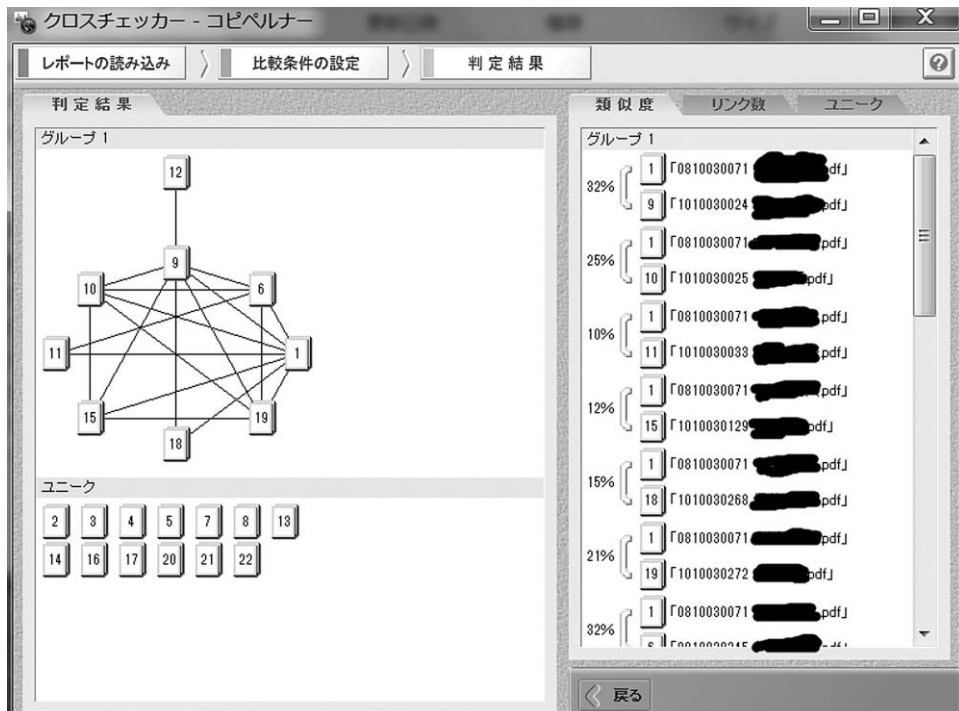
また、このように別の学生のレポートをコピペした学生は、内容が分かっていないがゆえに、両者は同じぐらいの点数であると誤信する。定期試験では、試験終了後に成績照会を行い他者との比較で自分の点数の低さに苦情を申し立てることが多い。蛇足の故事は、蛇に足を記入すれば蛇ではなくなるという意味であり、こうしたレポートの数行の不要な付け足しも元の答案の価値を台無しにする蛇足であることをレポート講評の機会に学生に伝えた。

(2) 国際組織法での活用例

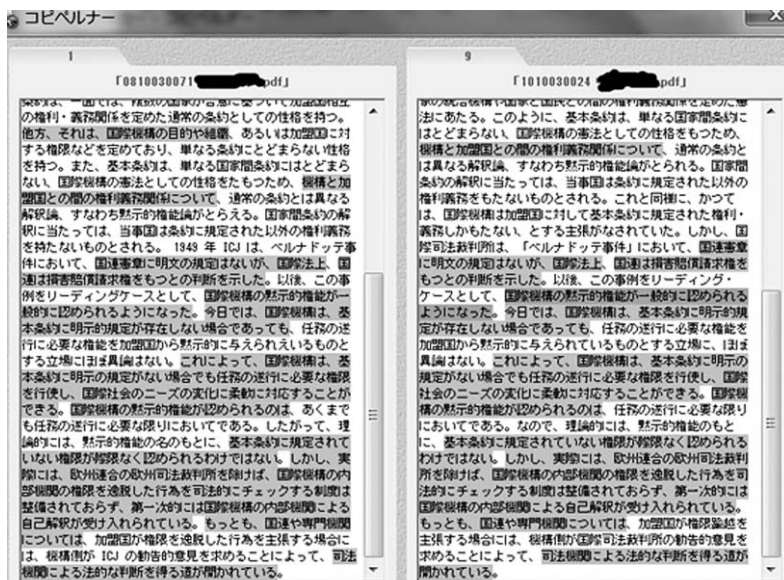
この講義では、期末テストと同一形式の問題をレポート課題として出題し、提出された文書相互間で類似性を判定するクロスチェッカーを用いた。

具体的には、2題の定義説明問題、1題の論述問題を出して、レポートを提出させた。うち、ここでは、論述問題である「国際組織の基本条約（設立条約）の解釈について論じなさい」という問題に対するレポートの比較検証結果を検討する。

検証結果では、類似性が強くみられるレポート課題が多数見られた。



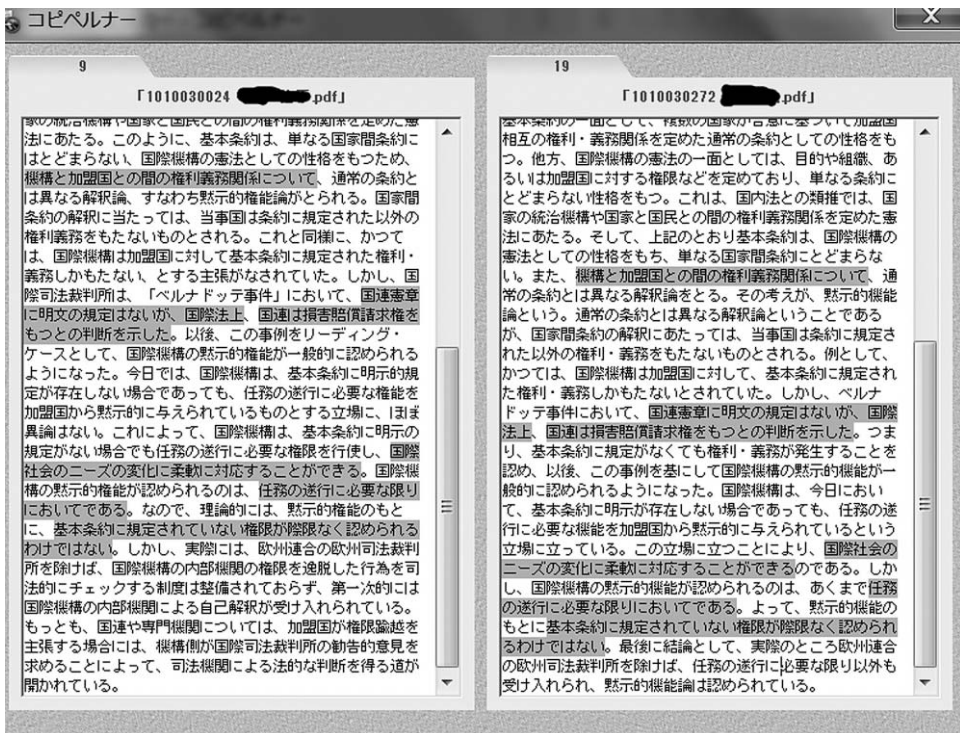
まず、前述の通り、敢えて教科書の一部のページを完全にコピペして作成したダミーのレポートを作成し、そのダミーとの類似性の判定も併せて考慮した。その上で、[グループ 1] の32%類似性が判定されたレポートの検証結果を見る。



これは、論述問題につき、教科書の記述との類似性を差し引いて考えても、全くの丸写しである。入学年次が異なるため、先輩後輩の助け合いかあるいは先輩が後輩に無理強いしている恐れがある。そこで、両者を呼び出して丸写しである旨注意し減点し、今後このようなことがないように警告した。

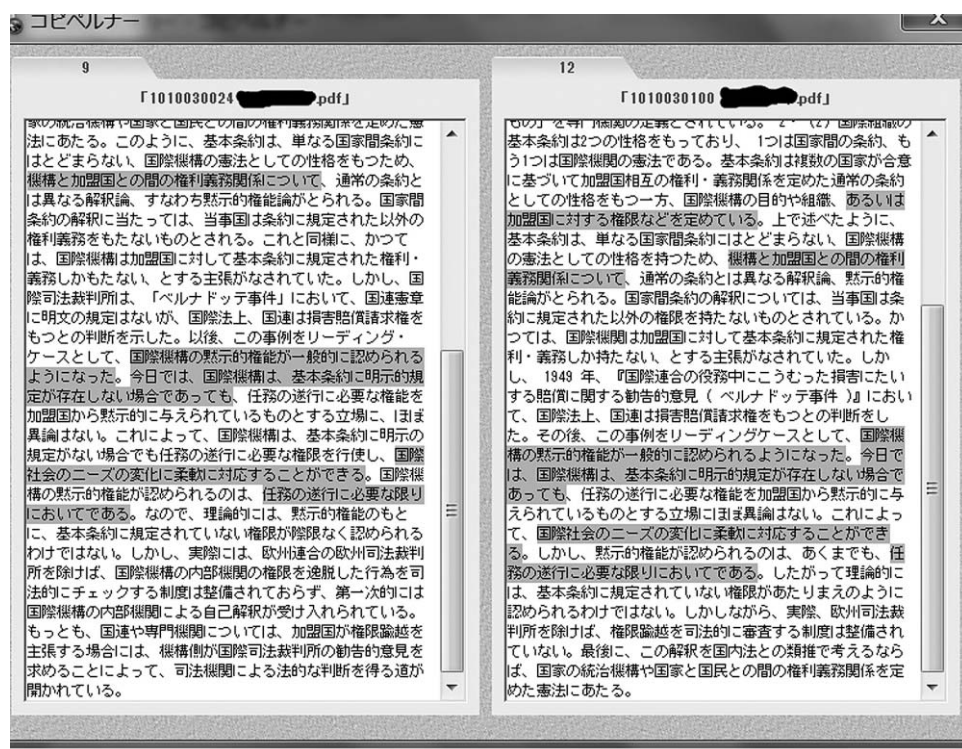
この右側のレポートは他の人もコピーしている。試験では、見る方もカンニングであるが、見せる方もカンニングである（細かく言えば共同正犯か幫助か議論はあるかもしれないが）。ゆえに、安易に他人にレポートを見せてはいけないこと、自分も疑われる恐れがあること、グループ学習を行う場合には、お互いに自分でレポートを作成して、その内容についてお互いに批評しあうよう注意した。

[グループ1]の他のレポート間で、蛇足（不要な説明）が追加されていることが両者の実質的な差異であるものが見られた。



右は左のレポートを改悪したものである。コピペルナーが判定する両者の類似性の多くは教科書の丸写しである。実質的差異は、最後の3行にあり、右のレポートでは、欧州司法裁判所を除き黙示的権能論が認められると結論されている。欧州司法裁判所は、国際司

法裁判所と異なり国際機関の内部機関による基本条約の違反に対する権限逾越を審査する権限を有する。このような権限逾越の問題は、このレポートでは一切上述されていないままに突然最後の3行で論じられており、論理の流れに違和感があるだけでなく、そもそも事実認識が誤っている。右の学生もまた、左の学生と同じぐらいの点数であると誤信している。こうした蛇足が元の答案の価値を台無しにしていることをレポート講評の機会に学生に伝えた。



右は左のレポートを改悪したものである。コピペルナーが判定した両者の類似性の多くは教科書の丸写しである。実質的差異は、最後の7行にあり、不必要な蛇足を書き添えた例である。

[グループ1]の類似性は、多くの学生が特定の学生のレポートを写した結果である。レポートの講評の際に、「基本条約の解釈を論じなさい」という論述問題が出された際に、多くの学生が記載した①ベルナドッテ事件の国際司法裁判所の勧告的意見、②欧州司法裁判所の権限逾越の判断権に必ず言及しなければならないわけではないことを指摘した。前者は教科書の丸写しで不必要に長い記述がなされ、後者はそもそも絶対に必要不可欠な論

点ではない。

(3) 国際人権法での活用例

この講義では、レポートのみで評定を行った。ただし、提出したレポートに基づき講義中に発表してもらう予定であること、レポートは採点后コメントを付けて返却するので、最終回までにレポートを修正して再提出することをシラバス及び掲示に明記した。

レポート課題は、日本の国内裁判所における国際人権法の適用事例を論じさせるものである。ただし、自分で具体的なテーマを決定し、そのテーマに基づき焦点を絞ってレポートを作成すること、長さ自由だが概ねA4で3ページ以上を目安とすると注記した。

このような事実上の自由論題であっても、類似の事例を選択した学生に類似性があると判定された。前述の通り、敢えて教科書の一部のページを完全にコピーして作成したダミーのレポートを作成し、そのダミーとの類似性の判定したところ、教科書及び参考書として指定した4種類の教科書を用いて多くの学生がレポートを作成したことが判明した。

クロスチェッカー - コピペルナー

レポートの読み込み > 比較条件の設定 > 判定結果

判定結果

グループ 1

9 — 1 — 7

グループ 2

20 — 24 — 10

グループ 3

25 — 17

ユニーク

2	3	4	5	6	8
11	12	13	14	15	16
18	19	21	22	23	26
27	28	29	30	31	

類似度 リンク数 ユニーク

グループ 1

11% { 1 Γ0810010262 pdfJ
9 Γ0910010300 pdfJ

18% { 1 Γ0810010262 pdfJ
7 Γ0910010153 pdfJ

グループ 2

11% { 10 Γ0910010302 pdfJ
24 Γ1010010266 pdfJ

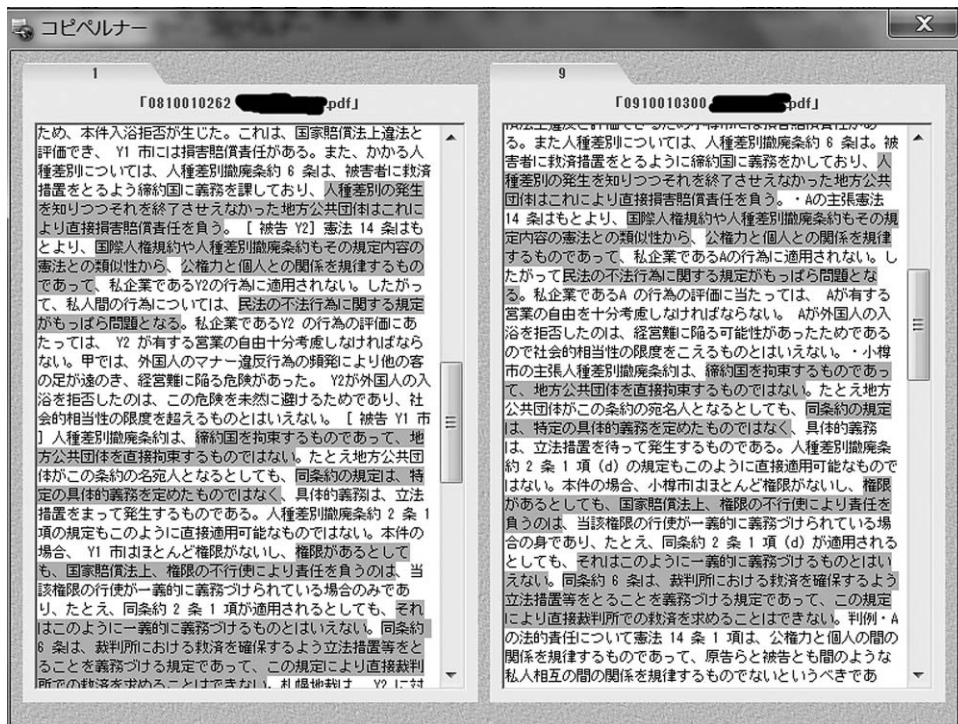
15% { 20 Γ1010010026 pdfJ
24 Γ1010010266 pdfJ

グループ 3

10% { 17 Γ0910030197 pdfJ
25 Γ1010010300 pdfJ

戻る

まず、[グループ 1] において11%の類似性があると判定されたレポートを検証する。



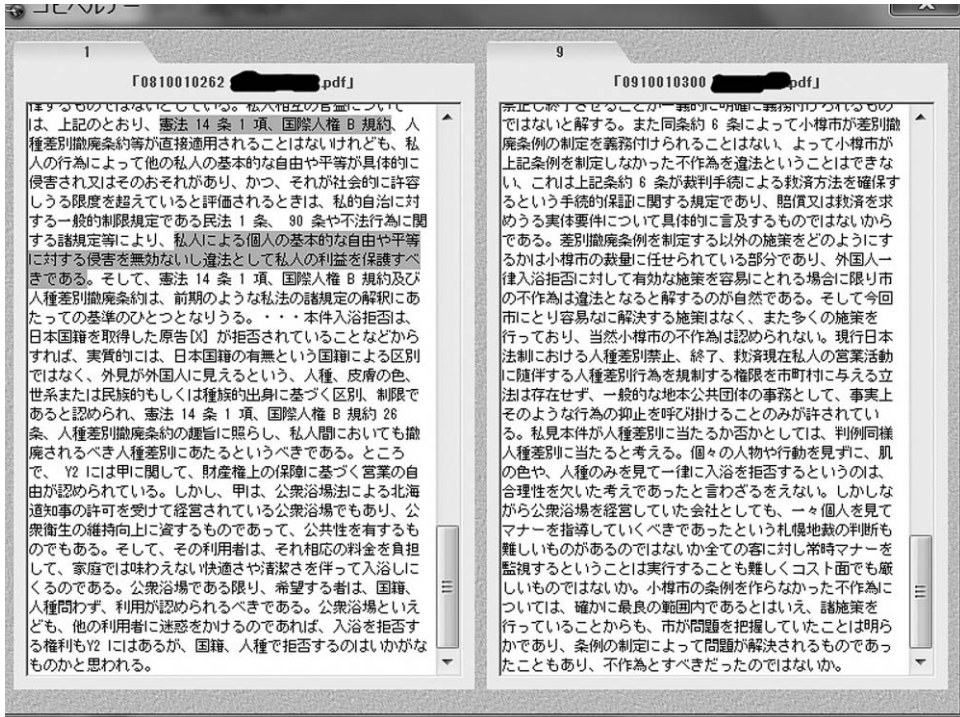
コピペルナーが類似性があると判定した部分は、教科書丸写しの部分である。

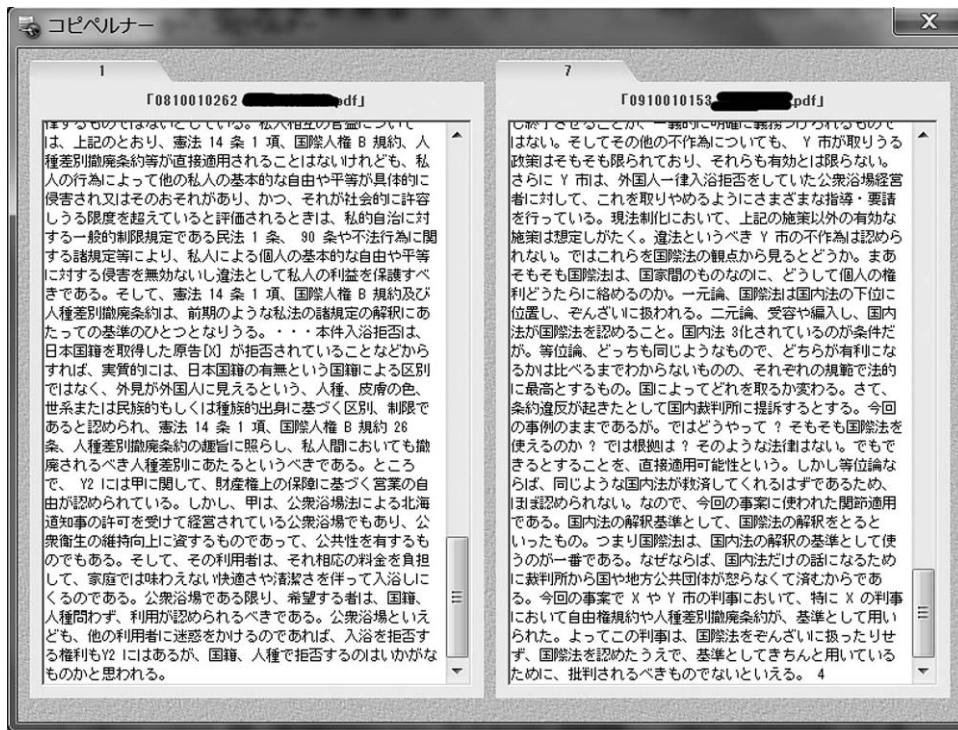
ほとんどすべてのレポートが4つのいずれかの教科書の関連部分をコピペしていた。そこで、人種差別撤廃条約の日本の国内裁判所における適用の問題を論じた〔グループ1〕の3つのレポートを検証した。次に示すように、これら3つのレポートは、教科書丸写しの部分があるが、結論が明らかに異なっている。ゆえに、レポートをお互いに写したのではなく、知らず知らずのうちに同じ教科書の同じ部分を丸写しにし、高い類似性が判定されていた。

講義では、この3人の学生に連続で発表させ、議論させてみた。しかし、まったく議論はできなかった。他の学生に質問をしても分かりませんと答えたり、あまり意味のない質問を繰り返すばかりであった。そこで、結論の違いに着目し、なぜそのような違いが出てきたかを考えるよう指導した。3つを比較しどの結論が明確か（論理の流れが明確か）示し、レポートの出来具合を比較講評した。また、レポートにコメントを付けて修正するよう指示を出した。

結局、自由論題であっても、教科書を意味も分からないままコピペするだけなので、高い類似性が判定され、内容について議論もできないのが実態である。多くの演習で議論が

成立しない状況にある。その原因は、報告者が調べた本の内容を意味も分からないままにコピペした原稿を作成し、それを棒読みするだけであるからである。こうしたコピペと原稿棒読みが演習の実態であろう。演習と講義の中間に位置づけられる議論の方法自身を教える講義が必要であると考える。





また、ユニークと判定された23件を教科書の記述と比較検証すると、2例のみ、4つの教科書と全く類似性がなかった。これらの学生を呼び出し、おそらく彼らが参照したであろう学術論文を言い当てたら驚いていた。彼らは論文を探してレポートを作成していた。この2名の学生はいずれも大学院に進学した。

6. 卒業論文指導での活用例の検証

卒業論文指導では、卒業論文とネット上の情報との類似性を判定するシングルチェッカーを用いた。卒業論文には、真面目な学生であると不真面目な学生であるとかかわらず安易なコピペが多い。例えば、参考文献の「……によれば」という個所を写してくる学生が多い。それは孫引きと言い倫理的に問題があるといちいち指摘しなければならない。また、参考文献として引用すれば結論を借用できるが引用されていなければコピペとなるとの指導も日常茶飯時だ。引用を明示せず借用を隠そうとする学生が実に多い。借用すると怒られると誤解しているようだ。

成績優秀者は、多数の文献を集めようとするあまり、信頼性の乏しいネット上の情報ま

でかき集めるのが原因と考えられる。ネット上の情報は書籍の情報よりも信頼性が乏しいこと、写したネット上の情報には学生が書いたレポートや Wikipedia のように匿名による説明が含まれ、これらは信頼性が乏しいこと、もちろんネット上の情報でも政府統計等一次情報なら利用できることを教えている。指導後は、コピペはゼロではないが、写す情報の信頼性を自ら判断する重要性を理解した。

次の卒業論文の例は、12月末の〆切時の提出原稿では、コピペ率7.8%、あいまい検索でコピペ率18.5%の検証結果であった。

The screenshot shows the 'コピペルナー' (Copypelner) software interface. The window title is 'シングルチェッカー - コピペルナー'. The interface is divided into several sections:

- 判別するレポート** (Reports to be judged): A list of documents, with the selected one being '貧困削減におけるマイクロファイナンスの課題と現状.pdf'.
- 判別結果** (Judgment Results): This section displays the plagiarism percentage as **7.8%**. Below this, it shows a list of detected documents with 4 items. The first item is highlighted: 'タイトル: グラミン銀行 URL: http://mf.nobisiro.com/dantai/gram_een.html'. Below the list is a 'プレビュー' (Preview) section showing a snippet of text from the detected document, which discusses the Grameen Bank in Bangladesh.
- レポートの読み込み** (Load Report): A button to load a new report.
- 比較条件の設定** (Set Comparison Conditions): A button to adjust search parameters.
- 判定結果** (Judgment Results): The current active section.

At the bottom of the interface, there are buttons for '結果の保存...' (Save Results...), '文献の表示' (Show Documents), and a '戻る' (Back) button.

シングルチェッカー - コピペルナー

レポートの読み込み | 検索条件の設定 | 判定結果

判定するレポート

貧困削減におけるマイクロファイナンスの課題と現状.pdf

手をさす。マイクロファイナンス機関には、銀行、協同組合、ノンバンク、国際 NGO、非営利団体などの様々な法的形態がある。以前はマイクロクレジット（小規模信用貸付）と呼ばれていたが、現在では信用貸付（クレジット）だけでなく、保険や貯蓄、送金などさまざまなサービスが重視されるようになり、貧困層や低所得者層を対象とするマイクロファイナンス（小規模金融）と呼ばれるようになった。特に貧困層の貯蓄ニーズの高さも注目され、融資のほかに預金も行うマイクロファイナンスに焦点が当てられている。貯蓄手段を得ることで、貧困層は、病気等の不慮の事態等への支出や農作物の不作などによる所得の急激な減少に対し、消費の抑制を抑制することができるのである。途上国における小口融資（マイクロクレジット）は、貧困層に等細事業向けの融資を与えることにより、所得向上や女性のエンパワーメントなど様々な効果を持つとして注目され、世界各国で取り組まれている。またいつでも借り入れできる信用制度や小口の出し入れが可能な貯蓄制度が、有事の際の消費平準化と資産蓄積に重要な役割を果たす。したがって、こうした貧困層へも融資や貯蓄へのアクセスを開き貧困からの脱却を支援していくことが、マイクロファイナンスの役割として期待されている。1-2 マイクロファイナンスの歴史そもそも等細農家を対象にした金貸しは、古来から東西文化で南北境界を置かず、行われていた。その組織としては日本では伝統的に頼母子講や無尽として知られおり、またアジア諸国では ROSCA (Rotating Savings and Credit Associations) と呼ばれているものも長い歴史を持つとされている。それらは従来、在来金融やインフォーマル金融と呼ばれている。在来金融の貸し手は地主、商人、血縁、地縁貸借などがあり、形態では個人貸し、貸金業（質屋）、互助組合（講）からの借り入れがこれに含まれる。在来金融の金利水準は一般的に著しく高く、金貸しは農家を搾取する主体として否定的に捉えられてきた。マイクロファイナンスは貧困層や低所得層を対象に、開発諸機

判定結果

コピペ割合 18.5%

文獻 (72件) ヒット率順

タイトル:
URL: http://www.seijo.ac.jp/pdf/faeco/k-enkyu/186/186-shouji.pdf

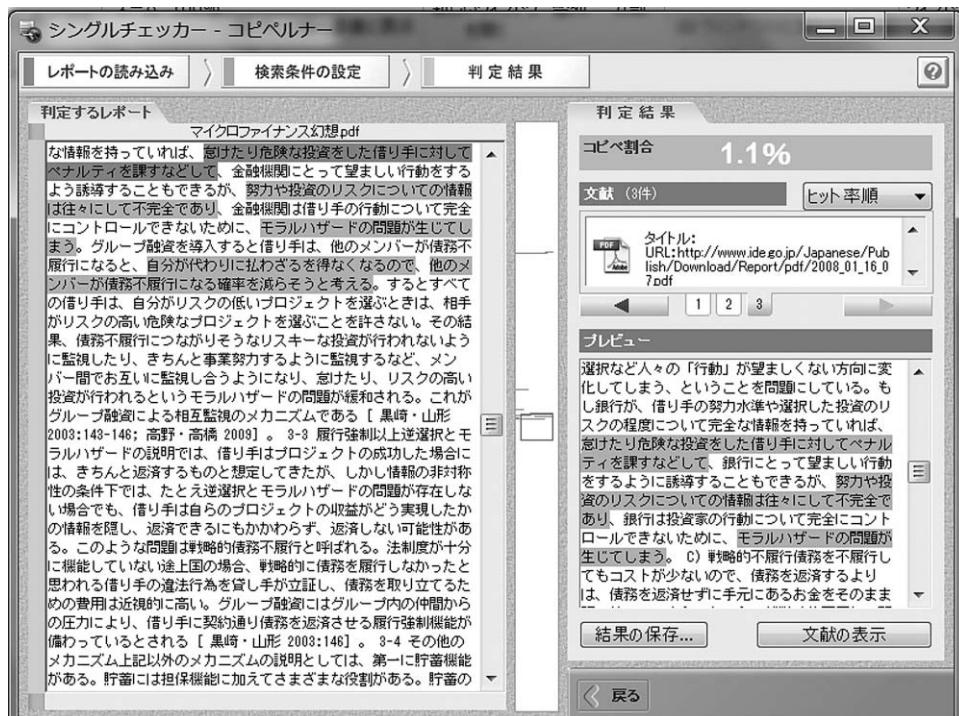
プレビュー

心とした現状と展望—庄司匡宏 1. [はじめに 2008年、 Bangladesh のマイクロファイナンス機関であるグラミン銀行、及びその創設者であるムハマド・ユヌス氏は、マイクロファイナンスを通じた画期的な貧困撲滅活動を高く評価され、ノーベル平和賞を受賞した。また学術的にも、マイクロファイナンスに関して膨大な数の研究がなされてきた。特に、いくつかの学術雑誌ではマイクロファイナンスの特集号を組み、1999 年には Journal of Microfinance が創刊されるなど、マイクロファイナンスの存在が、途上国における貧困削減政策として実務家、研究者を問わずに長年重要視され続けている (Armendariz de Aghion

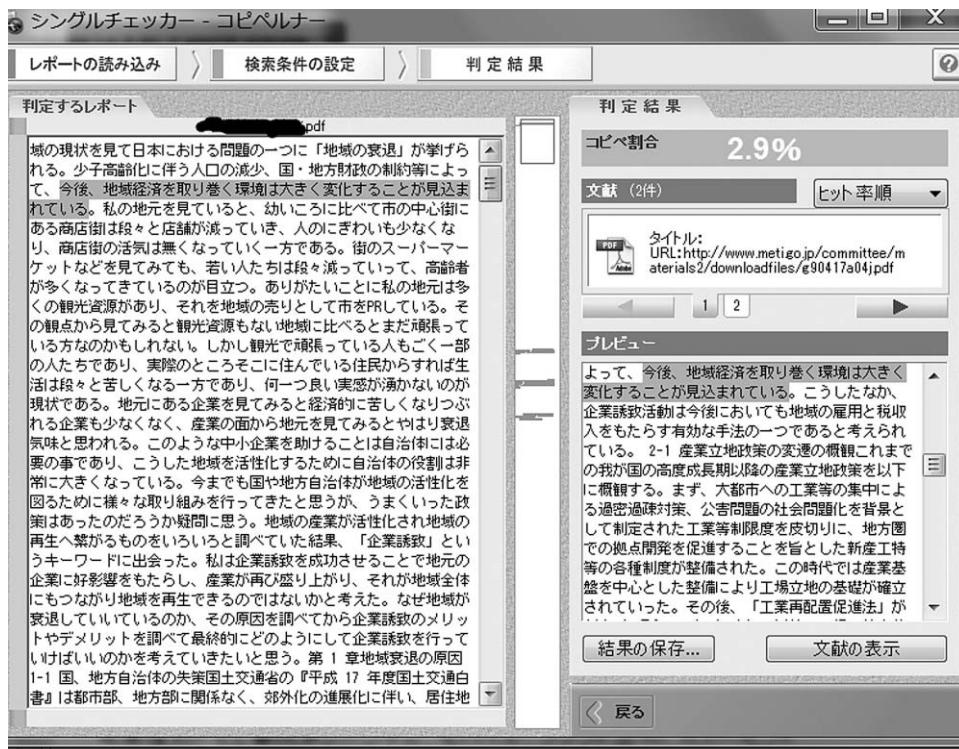
結果の保存... 文獻の表示

戻る

この卒業論文を提出した学生を呼び出し、信頼性の乏しい情報を除外し、改めて書籍を探し出させ、書き直させた結果、コピペ率は1.1%に低下し、かつ、ネット上の参照文献が信頼性が比較的確保されている3点に絞られた。



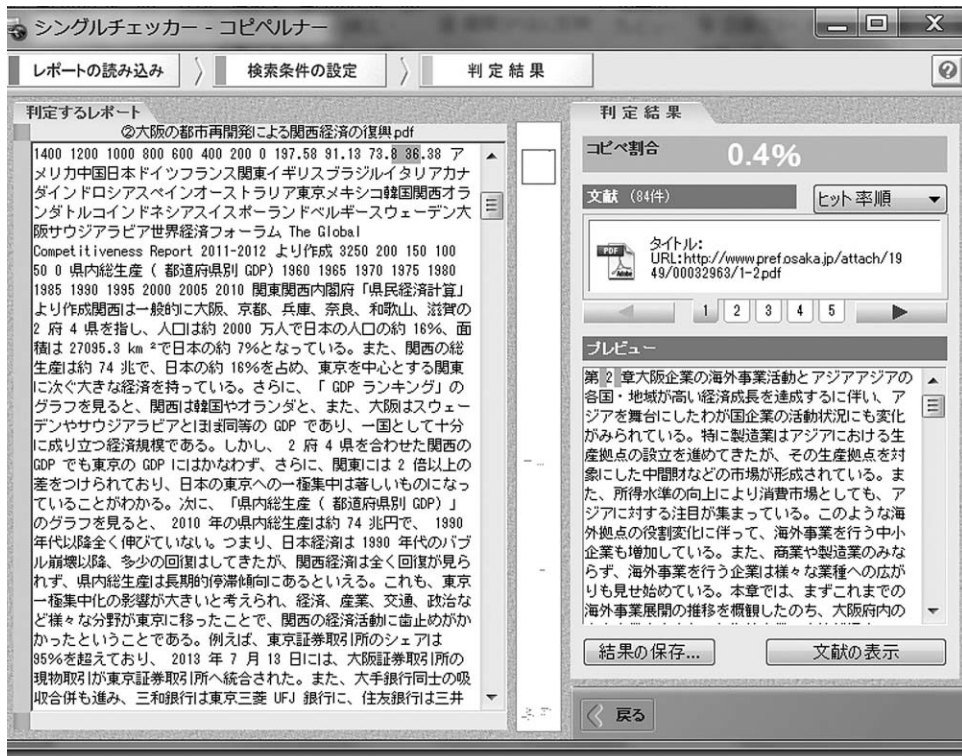
他方、不真面目な学生の場合も安易にコピペする。メ切間近で丸写しすることが多い。次の卒業論文の例は12月末のメ切時の提出原稿では、コピペ率2.2%であるが、2点のネット上の参考文献（経済産業省の報告書等で比較的信頼性が高いと思われる）をほぼ丸写しであった。研究室に呼び出し、改めて書籍を探し出させコピペ率がゼロになるまで書き直させた。



7. 懸賞論文判定での活用例の検証

経済学部では自然総研の主催で学生の懸賞論文を公募している。この論文審査判定で、提出された論文とネット上の情報との類似性を判定するシングルチェッカーを用いた。ネット情報丸写しの懸賞論文を表彰するわけにはいかないからである。

しかし、次の論文の例では、コピペルナーが類似性があると判定した資料は、本来学生が引用あるいは参照すべき情報であった。この論文では大阪府の取り組みを分析していたものの、大阪市の取り組みをまったく分析していなかった。コピペルナーは、最も類似する情報として大阪府の報告書を指摘したが、そのほかに大阪府がネット上で公表する発展戦略や観光戦略を関連性を有する文献として指摘していた。もしこの論文が大阪市のこれらの文献を調査していたならば、もう少し深みのある分析であったと思われる。



シングルチェッカー - コピペルナー

レポートの読み込み | 検索条件の設定 | 判定結果

判定するレポート

②大阪の都市再開発による関西経済の復興.pdf

1400 1200 1000 800 600 400 200 0 197.58 91.13 73.8 36.38 ア
 メリカ中国日本ドイツフランス開東イギリスブラジルイタリアカナ
 ダインドロシアスペインオーストラリア東京メキシコ韓国関西オラ
 ンダトルコインドネシアイスラエルベルギースウェーデン大
 阪サウジアラビア世界経済フォーラム The Global
 Competitiveness Report 2011-2012 より作成 9250 200 150 100
 50 0 県内総生産（都道府県別 GDP）1960 1965 1970 1975 1980
 1985 1990 1995 2000 2005 2010 関東関西内閣府「県民経済計画」
 より作成関西は一般的に大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山、滋賀の
 2 府 4 県を指し、人口は約 2000 万人で日本の人口の約 16%、面
 積は 27095.3 km²で日本の約 7%となっている。また、関西の総
 生産は約 74 兆、日本の約 18%を占め、東京を中心とする関東
 に次ぐ大きな経済を持っている。さらに、「GDP ランキング」の
 グラフを見ると、関西は韓国やオランダと、また、大阪はスウェー
 デンやサウジアラビアとほぼ同等の GDP であり、一国として十分
 に成り立つ経済規模である。しかし、2 府 4 県を合わせた関西の
 GDP でも東京の GDP にはかなわず、さらに、関東は 2 倍以上の
 差をつけられており、日本の東京への一極集中は著しいものになっ
 ていることがわかる。次に、「県内総生産（都道府県別 GDP）」
 のグラフを見ると、2010 年の県内総生産は約 74 兆円で、1990
 年代以降全く伸びていない。つまり、日本経済は 1990 年代のバブ
 ル崩壊以降、多少の回復はしてきたが、関西経済は全く回復が見ら
 れず、県内総生産は長期的停滞傾向にあるといえる。これも、東京
 一極集中化の影響が大きいと考えられ、経済、産業、交通、政治な
 ど様々な分野が東京に移ったことで、関西の経済活動に歯止めがか
 かったということである。例えば、東京証券取引所のシェアは
 95%を超えており、2013 年 7 月 19 日には、大阪証券取引所の
 現物取引が東京証券取引所へ統合された。また、大手銀行同士の吸
 取合併も進み、三和銀行は東京三菱 UFJ 銀行に、住友銀行は三井

判定結果

コピペ割合 **0.4%**

文獻 (84件) ヒット率順

タイトル:
 URL: <http://www.pref.osaka.jp/attach/1949/00032963/1-2.pdf>

プレビュー

第 2 章大阪企業の海外事業活動とアジアの
 各国・地域が高い経済成長を達成するに伴い、ア
 ジアを舞台にしたわが国企業の活動状況にも変化
 がみられている。特に製造業はアジアにおける生
 産拠点の設立を進めてきたが、その生産拠点を対
 象にした中間財などの市場が形成されている。ま
 た、所得水準の向上により消費市場としても、ア
 ジアに対する注目が集まっている。このような海
 外拠点の役割変化に伴って、海外事業を行う中
 小企業も増加している。また、商業や製造業のみな
 らず、海外事業を行う企業は様々な業種への広が
 りも見せ始めている。本章では、まずこれまでの
 海外事業展開の推移を概観したのち、大阪府内の

結果の保存... 文獻の表示

戻る

8. コピペは思考停止を意味する

ユニパとコピペルナーを活用して、教員が講義等においてコピペ判定結果を実名で表示し講評（指導）を加えることで、学生が言い訳できない形で、学生にコピペの問題点を認識させることができる。コピペの問題点は、大別すると、教科書の記述を意味も分らないままに丸写し・丸暗記していること、他人のレポートを丸写ししていることを姑息な手段で隠そうとすること、信頼性の乏しいネット上情報まで丸写しすることの3点である。いずれも学生が思考を停止しているという点で共通している。コピペの最大の問題は、学生自ら考えないという思考の放棄である。こうした思考が停止した学生は、議論することができない。演習で議論できない学生が増加し多くの教員が演習の運営で困り果てている。このような議論できない学生を輩出しても社会で自立して生きていけるとはとても思えない。

近畿大学では、成績優秀者でも学修方法が教科書丸写し・丸暗記にとどまっている。近畿大学が関関同立の一角に入るためには、学生が学修方法を改めることが不可欠である。

私は、近畿大学ではすべてのレポート・卒業論文がコピー検証されることをあらかじめ学生に強く警告しておくことが不可欠であると考えている。

9. 改善効果の確認

次に、教育改善効果を客観的に確認するために、コピー判定指導実施前年と実施年の全学共通授業評価アンケート調査結果を見る(表2)。国際組織法Aと国際法IIは、コピー判定指導実施前年と実施年で指定教科書とレジュメは同一のものを用いた。講義内容と範囲は国際情勢に応じ若干変更したがほぼ同一と考えてよい。両年の実質的差異は、講義途中で期末テストと同一の形式の中間レポート課題を課し、コピー判定結果を用いて講義で講評(指導)を行ったか否かにある。

実施前年では教員の熱意(設問9)や説明のわかりやすさ(設問2)は5段階評価の3.5~4.2で比較的高い。高度に専門的かつ先端的な充実した講義にしたいという教員の意欲は伝わっていると考えられる。しかし、理解度(設問1)、興味(設問6)、予習復習(学習意欲)(設問13)の評価はそれほど高くない。教員の意欲は感じても学修意欲等の改善までにつながっていない。いずれの指標も標準偏差が大きく、学生の評価が2分されていることが示されている。このことは講義の満足度(10段階評価、設問14)の分布(表3)にも表れている。

実施年のアンケート調査結果では、いずれの指標も概ね改善した。理解度、興味、予習復習(学習意欲)、満足度の標準偏差が小さくなっており、学生の評価が均一化されている。10段階評価の分布が上方シフトしていることから(表3)、これまで講義にそれほど満足していなかった学生や学修にそれほど意欲的でなかった学生が講義により満足し学修意欲を強めたことが示されている。

アンケート結果を見れば、授業の理解度、興味、学修意欲、満足度に関する指標が高まり、標準偏差が小さくなっている。すなわち、学生全体がより学修に意欲的になっている。授業の理解度、興味、学修意欲、満足度に関する指標の標準偏差の縮小と10段階評価の割合の上方シフトから見て、これまで学習にあまり意欲的でなかった中位・下位層がより強い学修意欲を持ったことが示されている。近畿大学では、期末テストと同一の形式で中間レポート課題を課し、コピーペルナーを用いてコピー判定を行い、講義においてその判定結果を用いて講評(指導)を行うと、学生の理解度、興味、学習意欲、満足度のいずれもが高まることが示されている。

教員が講義等においてコピペ判定結果を実名で表示し講評（指導）を加えることで、学生に言い逃れできない形でコピペの問題点を観念させ、①コピペと丸暗記でなく主体的に考える学修の重要性を認識させる、②信頼性の乏しい情報を取捨選別する重要性を認識させることに成功した。とりわけ、学修意欲の弱い学生の学修意欲を強め、学生全体が講義により満足し学修に意欲的になった。加えて、ICTの活用により提出管理→コピペ判定→講評（指導）のすべてにおいて教育の省力化と効率化（可視化等）を実現した。

表2 全学共通授業評価アンケート調査結果

国際組織法A（法学部）	実施前年		実施年	
	アンケート 平均値	標準偏差	アンケート 平均値	標準偏差
設問1 授業の内容は理解できましたか	3.2	1.17	3.8	0.60
設問2 教員の説明のしかたはわかりやすかったですか	3.5	1.22	4.0	0.77
設問6 授業に刺激され授業内に興味を持つようになりましたか	3.5	1.52	3.9	1.04
設問9 授業に対する教員の熱意を感じましたか	4.2	0.41	3.7	1.19
設問13 あなたはこの授業の予習または復習をしましたか	2.8	0.98	3.2	0.87
設問14 この教員の授業を10点法で評価してください	6.7	2.42	7.5	2.16

国際法Ⅱ（経済学部）	実施前年		実施年	
	アンケート 平均値	標準偏差	アンケート 平均値	標準偏差
設問1 授業の内容は理解できましたか	3.9	0.99	3.6	0.89
設問2 教員の説明のしかたはわかりやすかったですか	4.1	1.13	4.2	0.75
設問6 授業に刺激され授業内に興味を持つようになりましたか	3.9	1.55	3.9	0.68
設問9 授業に対する教員の熱意を感じましたか	4.1	0.83	4.4	0.51
設問13 あなたはこの授業の予習または復習をしましたか	3.5	1.41	3.2	0.98
設問14 この教員の授業を10点法で評価してください	7.4	1.77	8.2	1.05

表3 10段階評価の分布（％）

	国際組織法A		国際法Ⅱ	
	実施前年	実施年	実施前年	実施年
10	0.0	18.2	0.0	6.3
9	16.7	27.3	37.5	37.5
8	16.7	9.1	25.0	31.3
7	50.0	9.1	0.0	18.8
6	0.0	9.1	12.5	6.3
5	0.0	18.2	25.0	0.0
4	0.0	9.1	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.0	0.0
2	16.7	0.0	0.0	0.0
1	0.0	0.0	0.0	0.0

10. おわりに—近畿大学が関関同立の一角に入るために

コピペがなぜ問題であるか言えば、自分で思考しないからである。本研究は、安易にかつ罪悪感に乏しいままに頻繁に行われているコピペが、学生の思考停止という深刻な問題を孕んでいるかを示した。今後ますますパソコン、携帯電話、タブレットが普及するとますますコピペが深刻化することが危惧される。

そして、コピペがいかに問題があるかを学生に理解させるためには、コピペルナーの検証結果を用いた講義や指導を行うことが教育上不可欠であることを指摘した。

これまで指摘したように、近畿大学では、成績上位者であっても教科書丸暗記・丸写しの学修を行っている。コピペルナーの検証結果を用いた講義等での講評では、このような内容も理解しないままの学修方法を変えるよう学生に説いた。

近畿大学ではユニバーサルパスポートが導入されたものの、あまり活用されていないように思われる。ユニバーサルパスポートが教員の提案によって導入されたものではないこと、仮に活用している教員がいたとしても個人主義的な教員業績評価制度が導入されているためその活用のノウハウを普及させると損であると考えられることが一因と考えられる。私は、前者の問題については、教員の立場からユニバーサルパスポートの機能改善を提案する。近畿大学は、ソフトウェアは単なる買い切りでなく一定期間の保守（バージョンアップや機能改善）も含めた契約を行うべきである。後者の問題については、個人主義的な教員業績評価がファカルティ・ディベロップメントのような近畿大学全体でのノウハウの共有をかえって害することを指摘したい。

教員は教育研究雑務にあまりに多忙で、真に効果的な教育方法であっても実行できる時間的余裕がない。効果的な教育方法をより効率的に実行できるようにすることが、多くの教員が教育により熱心に取り組むために不可欠である。